

平成26年度岐阜県工業用水道事業会計予算

(総則)

第1条 平成26年度岐阜県工業用水道事業会計の予算は、次に定めるところによる。

(業務の予定量)

第2条 業務の予定量は、次のとおりとする。

(1) 給水事業所数	11カ所
(2) 年間総給水量	1,113,980 m ³
(3) 一日平均給水量	3,052 m ³
(4) 主要な建設改良事業	
可茂工業用水道施設建設事業	54,494千円

(収益的収入及び支出)

第3条 収益的収入及び支出の予定額は、次のとおりと定める。

収 入

第1款 工業用水道事業収益	92,885千円
第1項 営業収益	83,013千円
第2項 営業外収益	9,872千円

支 出

第1款 工業用水道事業費用	81,802千円
第1項 営業費用	59,342千円
第2項 営業外費用	13,207千円
第3項 特別損失	9,253千円

(資本的収入及び支出)

第4条 資本的収入及び支出の予定額は、次のとおりと定める(資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額55,929千円は、過年度分損益勘定留保資金53,770千円及び当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額2,159千円で補てんするものとする。)

収 入

第1款 資本的収入	37,328千円
第1項 企業債	17,000千円
第2項 出資金	4,900千円
第3項 工事負担金	15,428千円

支 出

第1款 資本的支出	93,257千円
第1項 建設改良費	54,494千円
第2項 企業債償還金	38,763千円

(企業債)

第5条 起債の目的、限度額、起債の方法、利率及び償還の方法は、次のとおりと定める。

起債の目的	限度額	起債の方法	利率	償還の方法
可茂工業用水道施設建設事業	17,000千円	証券発行又は普通貸借の方法により政府その他から起債する。	9.0%以内	借入先の融通条件によるものとする。ただし、本県の都合によりその全部又は一部を繰上償還することがある。

(一時借入金)

第6条 一時借入金の限度額は、5,000千円と定める。

(議会の議決を経なければ流用することのできない経費)

第7条 次に掲げる経費については、その経費の金額を、それ以外の経費の金額に流用し、又はそれ以外の経費をその経費の金額に流用する場合は、議会の議決を経なければならない。

職員給与費

28,306千円

(他会計からの補助金)

第8条 児童手当の一部に充当するため、一般会計からこの会計へ補助を受ける金額は、216千円とする。

(たな卸資産購入限度額)

第9条 たな卸資産の購入限度額は、1,063千円と定める。

岐阜県工業用水道事業会計予算説明書

平成26年度岐阜県工業用水道事業会計予算実施計画

収益的収入及び支出

(収 入)

(単位 千円)

款	項	目	予 定 額	備 考
1 工業用水道事業収益			92,885	
	1 営業収益		83,013	
		1 給水収益	54,139	
		2 経営負担金	28,874	
	2 営業外収益		9,872	
		1 受取利息及び配当金	118	
		2 他会計補助金	216	
		3 長期前受金戻入	9,538	

(支 出)

款	項	目	予 定 額	備 考
1 工業用水道事業費用			81,802	
	1 営業費用		59,342	
		1 原水及び浄水費	7,628	
		2 総係費	9,992	
		3 減価償却費	41,592	
		4 資産減耗費	130	
	2 営業外費用		13,207	
		1 支払利息及び 企業債取扱諸費	9,798	
		2 消費税及び 地方消費税	3,409	
	3 特別損失		9,253	
		1 その他特別損失	9,253	

資本的収入及び支出
(収 入)

(単位 千円)

款	項	目	予 定 額	備 考
1 資本的収入			37,328	
	1 企業債		17,000	
		1 企業債	17,000	
	2 出資金		4,900	
		1 出資金	4,900	
3 工事負担金		15,428		
		1 工事負担金	15,428	

(支 出)

款	項	目	予 定 額	備 考
1 資本的支出			93,257	
	1 建設改良費		54,494	
		1 施設改良費	54,494	
	2 企業債償還金		38,763	
1 企業債償還金		38,763		

平成26年度岐阜県工業用水道事業予定キャッシュ・フロー計算書

(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)

(単位 円)

1 業務活動によるキャッシュ・フロー	
当年度純利益	8,952,000
減価償却費	41,592,000
固定資産除却費	130,000
引当金の増減額(△は減少)	11,157,000
長期前受金戻入額	△ 9,538,000
受取利息及び受取配当金	△ 118,000
支払利息	9,798,000
未収金の増減額(△は増加)	△ 961,491
未払金の増減額(△は減少)	<u>2,177,860</u>
小計	63,189,369
利息及び配当金の受取額	118,000
利息の支払額	<u>△ 9,798,000</u>
業務活動によるキャッシュ・フロー	53,509,369
2 投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△ 41,393,000
無形固定資産の取得による支出	△ 9,799,000
工事負担金等による収入	<u>14,285,000</u>
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 36,907,000
3 財務活動によるキャッシュ・フロー	
建設改良費等の財源に充てるための企業債による収入	17,000,000
建設改良費等の財源に充てるための企業債の償還による支出	△ 38,763,000
他会計からの出資による収入	<u>4,900,000</u>
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 16,863,000
4 資金増加額(又は減少額)	△ 260,631
5 資金期首残高	<u>75,083,547</u>
6 資金期末残高	74,822,916

平成26年度岐阜県工業用水道事業予定貸借対照表

(平成 27 年 3 月 31 日)

(単位 円)

資 産 の 部

1 固 定 資 産

(1) 有 形 固 定 資 産

イ 土 地		284,693,224	
ロ 構 築 物	1,671,463,049		
減 価 償 却 累 計 額	<u>443,807,440</u>	1,227,655,609	
ハ 機 械 及 び 装 置	71,765,154		
減 価 償 却 累 計 額	<u>37,000,029</u>	34,765,125	
ニ 工 具、器 具 及 び 備 品	45,000		
減 価 償 却 累 計 額	<u>12,025</u>	32,975	
ホ 建 設 仮 勘 定		<u>109,509,508</u>	
有 形 固 定 資 産 合 計			1,656,656,441

(2) 無 形 固 定 資 産

イ ダ ム 使 用 権		<u>195,693,275</u>	
無 形 固 定 資 産 合 計			<u>195,693,275</u>

固 定 資 産 合 計 1,852,349,716

2 流 動 資 産

(1) 現 金 預 金

74,822,916

(2) 未 収 金

6,917,750

流 動 資 産 合 計 81,740,666

資 産 合 計 1,934,090,382

負 債 の 部

3 固 定 負 債

(1) 企 業 債

イ 建 設 改 良 費 等 の 財 源 に 充 てる ため の 企 業 債	<u>390,592,181</u>		
企 業 債 合 計		390,592,181	

(2) 他 会 計 借 入 金

イ 建 設 改 良 費 等 の 財 源 に 充 てる ため の 長 期 借 入 金	<u>492,000,000</u>		
他 会 計 借 入 金 合 計		492,000,000	

(3) 引 当 金

イ 退 職 給 付 引 当 金	<u>10,007,000</u>		
引 当 金 合 計		<u>10,007,000</u>	

固 定 負 債 合 計 892,599,181

4 流 動 負 債

(1) 企 業 債

イ 建 設 改 良 費 等 の 財 源 に 充 てる ため の 企 業 債	<u>39,671,000</u>		
企 業 債 合 計		39,671,000	

(2) 未 払 金

4,745,582

(3) 引 当 金

イ 賞 与 引 当 金	1,150,000		
ロ 修 繕 引 当 金	<u>2,230,843</u>		
引 当 金 合 計		<u>3,380,843</u>	

流 動 負 債 合 計 47,797,425

5 繰 延 収 益

長 期 前 受 金 446,654,888

収 益 化 累 計 額 118,398,085

繰延収益合計
負債合計

328,256,803

1,268,653,409

資 本 の 部

6 資 本 金

579,249,777

7 剰 余 金

(1) 資 本 剰 余 金

イ その他資本剰余金

76,293,396

資本剰余金合計

76,293,396

(2) 利 益 剰 余 金

イ 当年度未処分利益剰余金

9,893,800

利益剰余金合計

9,893,800

剰 余 金 合 計

86,187,196

資 本 合 計

665,436,973

負 債 資 本 合 計

1,934,090,382

注記事項

I 重要な会計方針に関する事項

当年度から、改定後の地方公営企業会計基準を適用して、財務諸表等を作成している。

1 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

・減価償却の方法	定額法による。
・主な耐用年数	
構 築 物	40年
機 械 及 び 装 置	15年から30年
器 具 及 び 備 品	10年

(2) 無形固定資産

・減価償却の方法	定額法による。
・主な耐用年数	
ダ ム 使 用 権	55年

2 引当金の計上方法

(1) 退職給付引当金

職員の退職手当の支給に備えるため、当年度末における退職手当の要支給額に相当する金額のうち、工業用水道事業会計の負担分を計上している。

(2) 賞与引当金

職員の期末手当、勤勉手当及びそれらに係る法定福利費の支給に備えるため、当年度末における支出見込額に基づき、当年度の負担に属する額を計上している。

(3) 修繕引当金

会計基準改定前に計上してあった修繕引当金を計上している。

3 消費税及び地方消費税の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理については、税抜方式としている。

II 予定キャッシュ・フロー計算書に関する事項

特に注記事項はなし。

III 予定貸借対照表等に関する事項

1 みなし償却制度廃止に伴う経過措置

平成26年3月31日において、償却資産の取得又は改良に充てるための補助金等で現に資本剰余金として整理している額については、該当資産と補助金等との対応関係を個別的に把握できる資産を除いた全ての資産（ただし、補助金等を充てずに取得又は改良したことが明らかな資産は除く。）を対象とした按分等の方法を用いて合理的に整理している。

IV セグメント情報の開示

当会計は、工業用水道事業のみを業務活動としていることから、1つの報告セグメントとしている。

V 減損損失

1 固定資産のグルーピングの方法

当会計は、工業用水道事業のみを業務活動としていることから、1つの資産グループとしている。

2 減損の兆候

当年度において、工業用水道事業について減損の兆候を認識している。

用 途	資産の種類	所在地
工業用水道事業	土地	美濃加茂市山之上町地内

なお、割引前将来キャッシュ・フローの総額が帳簿価格を上回るため、減損損失を認識していない。

VI その他の注記

1 新会計基準移行に係る経過措置

(1) 修繕引当金に関する経過措置

平成26年3月31日以前に引き当てられたものについては、引き続き従前の例により取り崩すこととする。

2 引当金の取崩し

(1) 賞与引当金の取崩し

当事業年度において、期末手当、勤勉手当及びこれらに係る法定福利費として3,578千円を支給するため、賞与引当金1,150千円を使用する。